



令和7年12月17日の研修会の様子

議会議員のハラスメント発生防止

弁護士法人幹盛岡さくら法律事務所の渡部容子弁護士を講師に迎え、「議会議員のハラスメント発生防止」について研修を行いました。近年、職場でのハラスメント相談が増え、2019年からは法的規制も強化されています。ハラスメントは加害者が自覚しにくく、被害者も声を上げにくいことが多いですが、被害者の健康被害や加害者の処分、職場環境の悪化、社会的信用の失墜など、深刻な影響があります。特に議員は加害者となりやすいため、自覚を持ち日頃から防止に努めることの重要性を改めて認識しました。

次は **3月定例会**（予定）
※日程は変更になる場合があります。

期 日	内 容
2月19日(木)	市長施政方針演述 ほか
2月20日(金) ～ 3月2日(月)	休会
3月3日(火)～6日(金)	一般質問、予算特別委員会
3月7日(土)・8日(日)	休会
3月9日(月)～13日(金)	議案審議、 予算特別委員会
3月14日(土)～16日(月)	休会
3月17日(火)	委員長報告 ほか

議会を傍聴しませんか

八幡平市議会では、本会議などを誰でも傍聴することができます。傍聴を希望する方は、議会開催日に市役所3階の議会事務局までお越しください。

開催時刻は一部を除き午前10時からです（終了時間は日によって異なります）。詳しくは、八幡平市議会のホームページをご確認ください。

議会の映像を見ることができます

八幡平市議会では、議会開催日に市役所本庁舎1階のテレビでライブ中継を行っているほか、インターネット（YouTubeの八幡平市議会のチャンネル）で録画配信しています。

令和7年12月定例会の視聴回数は1,363回です。
9月定例会の視聴回数は5,642回でした。
（令和8年1月7日時点）

クイズ

問 ○の中には、どんな文字（数字）が入るでしょう？

八幡平市議会には、○つの常任委員会がある。

- 応募方法 答え、住所、氏名（ふりがな）、年齢、「ギカイのひろば」を読んだ感想、市政や市議会への意見・要望などを必ず記入の上、はがきやファクス、電子メールでご応募ください。正解者の中から抽選で5名の方に八幡平市共通商品券1,000円分をお贈りします（当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます）。※お寄せいただいた個人情報は景品の発送以外には使いません。
- あて先 〒028-7397 八幡平市議会事務局 議会だより 係 FAX：0195-74-2105 E-mail：gikai@city.hachimantai.lg.jp
- 締め切り 令和8年3月6日(金)(当日消印有効)
- 前回(No81)の正解 55（人） 応募者 17人 正解者 14人

議会広聴広報常任委員会

- 期日 令和7年10月28日～30日
- 場所 岐阜県可児市、富山県小矢部市
- 内容 議会だより、議会報告会について



可児市役所全員協議会室での視察風景

小矢部市の議会だよりは、他紙を徹底的に参考にしながら特集記事を掲載し、関連した人物を表紙に使用しています。広報誌内では議会報告会の開催案内や実施報告、議員アンケートの告知も行われ、市民の関心を広聴活動へとつなげる役割を果たしていました。議会報告会では、当初の考え方を「報告すること」から「市民との接点をつくること」に変更し、「議員と語ろうみらいトーク」と題してワークショップ形式で開催していました。

かに おやべ 可児市議会と小矢部市議会を視察

可児市の議会だよりは、表紙に使われる写真などを市民から公募するなど、広報活動自体に市民参加を呼び掛ける工夫がありました。SNSを通じた情報発信も強化しており、議会活動や広聴活動の重要性を訴えています。議会報告会は常任委員会ごとに行い、報告会で寄せられた市民の意見は委員会の代表質問に活用されていました。



小矢部市議会議員と一緒に議場での集合写真

会派視察研修

（自由クラブ・日本共産党・松西会）



四万十市議会議場での集合写真

四万十町では、平成26年8月の台風11号による浸水被害を受けたことから、吉見川の浸水対策に着手しました。平成30年度から令和2年度にかけて排水ポンプ場を建設し、排水能力を高めています。また、排水ポンプ車や防災機材を保管する大型の防災倉庫も整備し、浸水対策の拠点としています。こうした多様な治水・浸水対策により、地域の安全確保を図っています。治水・浸水対策が地域の安全に大きく貢献していると感じました。

- 期日 令和7年11月16日～18日
- 場所 高知県四万十市、四万十町
- 内容 治水対策、浸水対策について

しまんとししまんとちょう 四万十市と四万十町を視察

四万十市では、氾濫を防ぎ被害を減らすため、さまざまな治水対策を実施しています。気候変動を踏まえ、気温が2℃上昇しても安全を維持できるよう治水計画を見直し、河道の掘削など洪水調節の確保に取り組んでいます。また、粘り強い河川堤防の整備や、洪水時に川がふれることも想定した減災対策の推進を図っていました。



四万十町での研修風景